

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピュズラ=ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン情報

AC トゥーレーヌ ラ・テニエール 2013 (白)

2013年のラ・テニエールは、霜の被害を免れたおかげで40 hL/haと例年並みの収量を確保できた数少ないキュヴェのひとつ！いつもよりもアルコール度数は低いですが、微かな残糖と洗練された酸とのバランスが絶妙で、今飲んで最高に美味しいワインだ！

AC プィイ・フュメ 2012 (白)

2012年は、ボノーム曰く、全体的にブドウの粒が小さく、いつもよりもアルコール度数は低い（それでも13.5%はある！）酸やミネラルなどの他のエキスがしっかりとまとまっており、余韻も長いとのこと！パスリヤージュのブドウの割合が20%！（ボトリティスはほとんどない。）味わいは濃厚でありながらアフターが重くないので、全く飲み疲れしない！ホクホクとしたクロタンドシャヴィニョール・チーズと相性は抜群！

AC トゥーレーヌ ロルモー・デ・ドウ・クロワ 2013 (白)

2011年はロルモーのブドウをペティアン・ナチュラルにし、2012年は霜の被害でシュナンが取れず、今回久々のリリース！鋭い酸味を幾分和らげるために、2013年はタンクではなく樽発酵&熟成を行っている。ライムを絞ったようなタイトでシャープな味わいは、まさに日本食にピッタリ！

AC トゥーレーヌ ピノワール 2013年

2013年という厳しいミレジムの中、シェール川沿いのピノは30 hL/haと例年並みの収量が確保できた！果実味以外の余計な抽出を抑えるため、ピジャージュは一切行わず、いつもよりもマセラシオンは短く調整している！アルコールが低いので、いつものピノよりも軽い仕上がりだが、アロマは全開！グロゼイユに少し還元香が混じったナチュラル・ピノ特有の官能的な香りがグラスを満たす！

VdF ラ・テニエール・ピノドニス 2013年

ボノームの中で、2013年赤の一番の自信作であるピノドニス！35 hL/haと2013年の赤の中では収量が多く確保できている。柑橘系の華やかな香りがあり、さらにピュアな果実のエキスと、キュートな酸、洗練されたミネラルの旨味がやさしく口に染み入る、まさに薄うまワインの王道～！ちなみに2012年からAOCの規定が変わり、ピノドニスはマイナー品種ということでACトゥーレーヌから外されVdFとなってしまった・・・

ミレジム情報 当主ピエール=オリヴィエ・ボノームのコメント

2012年は、ブドウの品質だけ見れば間違いなく当たり年と言えるが、収量は例年の半分以下…。シュヴェルニー周辺のガメイ、シュナンなど一部霜やミルデューの被害が大きかった区画は、ブドウの房がほとんどなく収穫自体を見送った…。その他の区画も軒並み収穫減。ネゴスのブドウが非常に高かったピニヨン泣かせのミレジムだった。

2013年は、ブドウに糖が乗らなかったプティミレジム。また、収量的にも2012年同様とても厳しい年

だった…。5月上旬、下旬と2回に渡りドメーヌ周辺からシュヴェルニーかけて霜が降り、ピノノワール、ガメイ、シュナンの一部に被害があった…。幸い、テゼ、パイエ、テニエールなどシュヴェルニーよりも南にあるシェール川沿いの畑は全く問題がなかった。その後は日照量の少ない冷涼で曇りがちな天候が9月頭まで続き、収穫中も雨の多い不安定な天候に見舞われた。

ただ、ブドウの成熟をぎりぎりの10月いっぱいまで待ち、丁寧な選果をしたおかげで、潜在アルコール度数は低いが、フェノールがしっかりと熟したブドウを収穫できた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

ボノームの2014年収穫は10月6日に終了！今回の訪問は、ちょうど収穫終わりに行われる打ち上げ La Farcie (ラ・ファルシ) にぶつかった。総勢30名くらいの収穫者と一緒にお昼を食べたが、私がイメージしていた酔っぱらいのドンちゃん騒ぎはなく、みんな和気あいあいと談笑を楽しみながら食事をし、そのあとに広場でペタンクをするなど、まさにボノームの物静かな性格を反映したかのような和やかな打ち上げだった。

彼に2014年の収穫状況を聞いてみたが、今年は7月中旬から8月にかけて雨が多くミルデューが猛威を振るったため、ピノやピノドニスの一部、そして、シュナン、ロモランタンなど畑の散布作業があと一歩追いつけなかったところは大打撃だったようだ…。また、収穫の後半にピノドニスにオウトウショウジョウバエ (*Drosophila Suzukii*) の被害に遭い、結果ドニスの全収量は2012年同様に6割以上の減収となりそうだとのこと…。でも、ソーヴィニヨンなどそれ以外の品種は、とりあえず例年並みの収量は確保できそうだ！

ブドウは、ボノーム曰く、ピノドニス以外選果の必要がなく、きれいなものを取り込むことができたとのこと！ミレジムの的には、全体的にスマートでストラクチャーのはっきりとした2010年のようなタイプのワインに仕上がると予測している！

(2014.10.9.ドメーヌ突撃訪問より)